

取組の名称		住人の幸福感に作用する環境とコミュニティのデザイン	
活動主体（団体名）		株式会社 チームネット	
活動主体（団体名）（フリガナ）		カブシキガイシャ チームネット	
取組の内容 （自由記述）	①概要	住人にとっての幸福感に作用する環境とコミュニティをデザインするという観点から環境共生住宅づくりに取り組んでいる。この考えに基づいて実践された「経堂の杜」では、かつての屋敷林を活かし、太陽の熱や光、風、夜間の冷気など自然の恵みを住まいに取り込み、自然の力で室内環境を快適にする「パッシブデザイン」の手法を取り入れた。	
	②取組内容を確認できるURL（または資料添付）	https://teamnet.co.jp/ https://teamnet.co.jp/work2021/01/ https://teamnet.co.jp/message/	
	③実施時期、頻度	通年	
	④活動場所（所在地）	世田谷区	
	⑤活動の規模（参加者数）	12世帯	
	⑥活動状況がわかる写真（撮影年月日）（既に実施している場合）※		
	2020年9月10日	2018年4月14日	
対応する社会課題 （該当する項目にチェック／複数選択可）		<input type="checkbox"/> 子供の福祉（子供の健やかな成長を社会全体でサポート） <input checked="" type="checkbox"/> 都民の健康・長寿（誰もが元気で心豊かに暮らせる地域の実現） <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ形成（誰もが集い、支え合うコミュニティを至るところに形成） <input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災／気候変動対策（地球温暖化に伴う豪雨や自然災害等の被害軽減） <input type="checkbox"/> 地域振興（東京全体の生産性、魅力向上） <input type="checkbox"/> 観光・文化振興（人々のウェルビーイング、東京のプレゼンス向上） <input type="checkbox"/> 農林水産業の成長（危機に強い産業構造への転換） <input checked="" type="checkbox"/> 緑や水辺を生かした空間の創出／自然保全・管理（都市機能を高め、世界を魅了）	
活用している生態系の機能 （該当する項目にチェック／複数選択可）		<input type="checkbox"/> 供給サービス（日々の暮らしに必要な資源を供給／食料、繊維、木材、水、薬品など） <input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（二酸化炭素の吸収） <input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／ヒートアイランド現象・暑熱環境の緩和） <input type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／大気汚染や騒音の低下） <input type="checkbox"/> 調整サービス（災害の緩和／台風、洪水、津波、地滑り、雨水浸透、Eco-DRR） <input type="checkbox"/> 調整サービス（水質の浄化／窒素やリンの吸収、有機物の取り込み） <input type="checkbox"/> 調整サービス（花粉媒介／植物の世代交代、農作物の収穫量の増加） <input checked="" type="checkbox"/> 文化的サービス（精神を豊かにする機能／芸術的・文化的なひらめき、教育的効果、心身のやすらぎ、観光レクリエーションなど） <input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（生息・生育環境の提供） <input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（光合成による酸素の生成） <input type="checkbox"/> 基盤サービス（地力の維持及び栄養循環）	
貢献の内容 （自由記述）	①人間の幸福に対して	<p>「パッシブデザイン」により、樹齢120年となる巨大なケヤキの保全や、落葉樹を中心とした植栽、東西面の壁面緑化等により建物全体を緑で覆うほか、冬の日射や夏の風の取り込みを考慮した建物の配置等によって一つの大きな「自然の空調装置」として機能させることで、室内環境の快適化を図っている。</p> <p>また、事業方式として「コーポラティブ方式」を採用し、緑を暮らしの一部であるグリーンインフラとして取り入れることで、個人単位では実現が難しい緑に囲まれた住環境を整備することに繋がっている。豊かな緑の空間は、心地よい暮らしを生み出すと同時に、住人同士をゆるやかに繋ぐ場として機能している。</p>	
	②生物多様性に対して	<p>高い地価を背景に、相続等を機に都市の緑が減少していく中、樹齢120年となるケヤキの保全に加え、落葉樹の植栽や、壁面や屋上の緑化によって建物全体の緑化を行うことで、地域に生息する生物の生息環境の保全・創出に貢献している。</p>	